

# HCMC Chronicle

ホーチミン日本人学校

川上 裕明

## あちこち行ってきました

10月末、小学部6年生と修学旅行でハノイに行ってきました。

ハノイは言わずと知れたベトナムの首都で人口はおよそ880万人、ホーチミンから北に1,650km、飛行機で約1時間半のところにあります。

旧市街を中心に、東南アジア、中国、フランスなどの影響を受けた歴史的な建造物が現存しており、タンロン城や文廟など見どころが多いです。ただ、由緒正しい街並みが、私には「ホーチミン

市と比べると、なんだか色が薄いな」と感じられてしまい、自分がすっかりホーチミンびいきになったことを認識させられました。あと、ハノイは寒い。



10月末に長袖を着てる……

2泊3日の旅行の最終日、ハノイ日本人学校を訪問しました。今年6月にはハノイの6年生が修学旅行でホーチミンを訪れた際に交流会を行っており、そのとき以来の再会です。ベトナムにある日本人学校は、ホーチミンとハノイの2校だけ

と思うと、年にたった2回の交流ですがすごく親しみがわいて不思議です。ハノイ日本人学校の児童に校内を案内してもらったり、ゲームをしたり合唱を聴かせてもらったりする中で、心の距離がさらに縮まったことと思います。

そうそう、旅行中には世界自然遺産に登録されているハロン湾にも行くことができました。石灰岩質の地質が長い年月で浸食されて様々な形を作っており、岩の間をクルーズしたり鍾乳洞を散策したりなど楽しめます。「ハロン」とは「竜が降りた場所」という意味で、その名のとおりで

こから竜が出てきてもおかしくないような絶景です。いや、さすがに「竜が……」は言い過ぎか



11月は、小学部5年生と宿泊学習でブンタウへ、その翌週には中学部1年生と宿泊学習でカントーへ、それぞれ1泊2日の旅です。

ブンタウは、ホーチミンから車で2時間ほどの海岸の街です。以前は「バリア＝ブンタウ省の省都」でしたが、今年5月の省庁再編でホーチミン市の一部となりました。小学部5年生は、カカオパークで農園や焙煎の様子を見学したり、できたて熱々チョコレート



を型に流し込んでオリジナルチョコレートを作ったりしました(ベトナムのカカオ生産量は約 3,000 トン/年で世界生産の0.1%ほどですが、ホーチミン市内にはベトナム産カカオを使った高級チョコレート店がいくつもあります)。夕食は炭火でカレーライス作りとキャンプファイヤー、翌日はビーチのゴミ拾い活動などを行いました。



翌週は、中学部1年生とカントーに行きました。カントー市はベトナム第5の都市で南部メコンデルタの中核市、「川の都」とも呼ばれています。

ここでは、ホーチミン一日観光で定番の「メコン川クルーズ」で有名なミトーで、班に分かれてウォークラリーをしたり、翌日はカントー大学(40,000人以上の学生が在籍する巨大な大学で、日本のODA協力も多い)施設を見学したりしました。カントー大学は農林水産の研究が中心です。大学の方の「地球温暖化の影響で、海拔の低いメコンデルタ地域は海水浸水による塩害が深刻です。ここでは、塩害に強い品種の開発に力を入れています」という言葉に重みを感じました。



さて、ホーチミン日本人学校の子どもたちと旅をして思うのが、「仲の良さ」です。

ホーチミンに限らず、在外教育施設の多くに在籍する児童生徒は海外駐在員のお子さんがほとんどで、在籍期間は2～3年といった子が多いです。そんな環境ですから、学級では編入学してきた子をととても温かく迎え入れますし、どの学年も男女を問わず仲良し。「心を開いて力を合わせ、出会いを大切に瞬間を楽しむ」、大切な資質が育っているのを感じました。

11月20日朝、レジデンスのレセプションでの会話「(川上)今日からカントーに出かけて1泊するので、明日のルームクリーニングはいらないです」「(レセプションの人)関東ですか、久しぶりの日本ですね。行ってらっしゃい」「(川)いや、『関東』じゃなくて『カントー』で・・・あ!ミトーですミトーに行ってきます!」「(レ)水戸ですか、日本の秋はいいですね。行ってらっしゃい」「(川)いやいや、『水戸』じゃなくて・・・」

ベトナム語はトーンが難しくなかなか通じるように話せません。しかしこの人、よく「水戸」とか知ってる……